

JBL4350A 奮闘記(6) —デジタル再生系の進展—

1. 始めに

前報(5)のアナログ再生系の進展に引き続き、デジタル再生系の進展について報告いたします。

2. デジタル再生系

現有のデジタル再生系の機器については、編集者 Profile のページのオーディオ機器リストに示されたとおりですが、ここでは過去に使用したものも含めて述べてみます。

アナログを 20 年間あまり聴いてから、CD 時代が始まりました。当初、CD は 0 と 1 の記録媒体であるから、機種によって音は変わらないという議論を信じて、ごく普通の DENON などの CD プレイヤーを使っていました。何となく違和感がありました。その後、この音が良いと勧められて購入したのがマランツの CD95 (写真) で、さらにフィリップスの LHH-300R を追加、DAC とトランスポートの分離が良いと言うので、47 研究所の 4716 信楽 (写真) とパーツコネクションの DAC2.5 の組み合わせにし、そして Birdland Odeon Lite (写真) の DAC との組み合わせにしました。CD95 や LHH-300R も S/PDIF 出力がありますので Odeon Lite と組み合わせると、かなり満足のいくものになってきました。



この頃 SACD が発売されたのでユニバーサルプレイヤーのマランツ DV-9500 (写真) を購入し、SACD や DVD の鑑賞もできるよう楽しみの範囲が広がってきました。さらにサブシステム用に DENON の DVD2910 を追加、もう少しグレードアップしようとしてマランツの SACD/CD プレイヤー SA11-S1 (写真) を使うようになりました。



ここでデジタル再生の転機が訪れました。それはインフラノイズが出した電波時計のクロックを利用した ABS-9999 (写真) でした。トランスポートと DAC の間にこれを挿入してリクロックすると今までデジタルに感じていた不満が随分と解消されました。さらにインフラノイズの DAC-1 (写真) を購入し、CD95 と DAC-1 と ABS-9999 を組み合わせると、せっかく購入した SA11-S1 の SACD が色あせてしまい、ショックを受けたものです。



デジタル再生に転機をもたらせた ABS-9999 はオーディオ仲間から譲っていただいた ABS-7777 (写真) と CDR-555 (写真) にとって代わりました。



さらに、電波時計クロック利用の ABS-7777 に GPS クロック利用の同じインフラノイズ社の GPS-777 (写真) が加わりました。インフラノイズ社のデモにおけるスチューダー727 やオーディオ仲間の M 谷氏の CEC のトランスポート TL-3N に GPS-777 のクロックを入れた音に衝撃を受けてクロック入力のあるトランスポートの導入を図り、マランツの SA11-S2 (写真) を皮切りに EMT982 (写真)、EMT981 (写真) と立て続けにクロック入力を可能とするシステムに進んでしまいました。





写真

上から EMT981、EMT982、LHH-1001



写真

上から LHH-1002、SA11-S2

これらの経過はオーディオ実験室のデジタルレコーダーのページに一連の GPS-777 クロック入力トランスポートの導入報告 (SA11-S2)、EMT982 導入顛末記、EMT981 導入顛末記として詳細を記載してあります。

さらに、クロックレシーバーの CRV-555 は CCV-5 (写真) にとって代わり、外部クロック入力機器が増えたことからクロック分配器の CCD-6 (写真) を導入しました。一連のクロック機器のうち、GPS-777 については、オーディオ実験室のクロック関連機器のページに一連の GPS-777 クロック入力試聴報告として、CCV-5 については、一連の CCV-5 クロックレシーバー試聴報告として、CCD-6 については CCD-6 試聴記として詳細を報告してあります。さらにクロック入力をどこにどのように行うか、一連の外部クロック入力実験の報告で検討した結果を報告しています。

なお、CCV-5 と GPS-777 を組み合わせた効果が大きかったことから、トランスポートと DAC 分離型の CD プレイヤーの LHH-1000 (LHH-1001 と LHH-1002) (上記写真) も導入することになりました。



3. まとめ

デジタル再生もアナログ再生と同様に紆余曲折がありましたが、意識しないうちにフィリップスのスイングアームメカの良さが分かるようになり、CD-95、LHH-300R、EMT981、EMT982、LHH-1000 と増えていきました。これらフィリップスのメカのスペックは海外文献抄録のページのデジタルプレイヤースペックに記載しています。

一方、クロックの重要性に引き付けられて一連のクロック関連機器の導入となりました。特に、GPS衛星のクロックについては興味を引かれ、文献を漁ってその効果の理由を探ろうと試み、オーディオ論壇のページに「GPS-777による音質向上の考察」としてまとめました。

デジタル再生については、「スイングアームメカ+高精度の外部クロック」という組み合わせが現在到達した結論です。

以上